
SHUFFLE! ~ IF Story ~

紅の鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SHUFFLE！ ～ I F Story ～

【Nコード】

N1791R

【作者名】

紅の鳥

【あらすじ】

8年前のある日、大雨の中少年は一人の女性と出会う。本来なら出会うはずのないこの出会いが、本来の物語とは違う物語を進める事になる事は必然であった。

注意：このSSはSHUFFLE！の二次創作です。

独自設定・独自解釈・独自キャラがあるので苦手な方はご注意ください

45°

プロローグ 雨の日の出会い(前書き)

何をトチ狂ったのか、SHUFFLE!の二次創作を執筆してしまいました。

反省はしています。でも後悔はしてない!

って事で、とりあえずプロローグです。

短いですがとりあえず、どうぞ!

プロローグ 雨の日の出会い

（約八年前）

蒼空市光陽町

大雨が降る中、とある公園にて二人の人影が立っていた。

一人は8歳前後の少年、もう一人は同じ年であろう少女。

二人とも、傘を差さずにその場に立っていた。

「りんくんなんて……！ りんなんて！ 死んじゃえばいいんだ！」

少女は、少年に限りない憎悪の視線を向けそう言つたその場から駆け出す。

少年は駆け出した少女を追う訳でもなく、暫くの間何かに必死に耐える様な

表情を浮かべてその場で雨に打たれ続けた。

やがて、そのままどの位の時間が過ぎただろう。

10分か30分か、あるいは数時間かもしれない。

そんな時だった。

「ねえ、その君？　こんな大雨の中、傘も差さずに公園で突っ立って何してるの？」

ふと、後ろからそんな女性の声が聞こえてきた。

「……………え？」

まさか誰かに話かけられるとは思っていなかった少年は、反射的に後ろを振り向く。

其処に居たのは一人の女性だった。

年齢は19歳前後だろうか、美しい翠色の髪を腰辺りまで伸ばし、まるで宝石の様な

紅と蒼の瞳を持つ。

そして、まるで美の女神の様に完成されたバランスのスタイルと

顔立ちを誇る

この大雨にも関わらず傘を差していない絶世の美女が其処にいた。

何故、この女性は傘を差していないのか。

もしかして、自分と同じ様に態と雨に打たれているのか？

そう思った少年だが直ぐに理由がわかった。

そう、彼女に傘は必要無いのだ。

何故なら、降り注ぐ雨が彼女の身体に触れる寸前で、まるで何かに拒絶されるか

の様にきらきらと輝きながら弾かれているから。

6

「全く、このままじゃ風邪引いちゃうわよ？」

呆れたと言わんばかりに溜め息を付くと、女性は何処からとも無くまるで手品の

様に傘とバスタオルを取り出すと、傘を広げ少年から雨を遮断し、タオルで

手馴れた様に少年の体を拭いていく。

「それで、君はどうしてこんな所で雨に打たれていたの？」

「……………」

少年の濡れた体を丁寧に拭きながら、女性は再び質問を繰り返すが、少年は

黙ったまま答えようとしなない。

「…………ふふ、まあ答えたくないならいいわ」

そんな少年の態度に、女性は気にする素振りすら見せずにそう告げた。

すると、そんな女性の態度に疑問を持ったのだろうか？

少年が漸く口を開いた。

「…………お姉さんは、どうして僕に声を掛けたの？」

「ふふ。だってこんな大雨の中、君みたいな子供が傘も差さずにポ
ーっと

雨に打たれてたら誰でも気になると思うけどな」

表情を浮かべない少年に、女性はふふつと悪戯な笑みを浮かべる。

同時に少年の体を拭き終わったのか、また取り出した時と同じく
手品

の様にバスタオルを仕舞うと、少年と向き合った。

「さてと、こんな所で出会ったのも何かの縁かもしれないし、君。
少しお姉さんとお話でもしない？」

「……………お話？」

傘を少年の手に持たせると、女性は片目を閉じる。

「ええ、まずは自己紹介といきましょうか。」

私の名前はサーシャ・エンデンス・ラフィナ・黎^{れい}・ケールよ」

「さ、サーシャ・えん……………ええっと」

女性の名前を復唱しようとする少年だが、長い名前で覚え切れなかった

のか、口ごもってしまふ。

そんな少年を見て、女性はやさしく少年の頭を撫でた。

「ふふ、ごめんね。長くて言い難いわよね。

そうねえ、私の事はサラでいいわ。知り合いは皆そう呼んでいるしね。

で、良ければ君の名前を聞かせてもらえないかな？」

「僕は……………土見稟」

「じゃあ、稟って呼ばせてもらおうわね。

でも、立ったまま言って言うのもアレだし、そのベンチに座ってお話しましょ」

そう言うと、サラは公園に設置された一つのベンチに手を向け、パチンと指を鳴らした。

その瞬間、稟にとって驚くべき光景が飛び込んできた。

突如、そのベンチを覆う様に透明の何かが展開され雨を遮断すると、次に濡れていた

筈のベンチと稟の着ていた服が何の前触れも無く瞬時に乾いてしまふ。

行き成りの出来事に驚き、固まっている稟。しかし、そんな事は気にしないとばかりに

サラは未だに凍ってる稟の手を引っ張ると、唯一雨から遮断されているベンチに向かい

そのベンチに二人は腰を下ろした。

「よし、これでゆっくりお話できるわね」

満足そうに頷くサラ。

そんな彼女に促されてベンチに座ってから、漸く稟は再起動を果たすと

不思議な現象を起こしたサラに疑問をぶつける事にした。

「お姉さん、さっきの僕の服を乾かしたのもこのベンチを乾かして
雨を

凌いでいるのも、もしかして……魔法なの？」

魔法、それは2年前の開門によって神界・魔界により齎された神
秘の力であり

開門以前は、この人間界に存在しなかった力である。

本来なら、その魔法を扱えるのは神族・魔族のみであり、人間は
扱えないのだが。

「ええ、まあ厳密には違うけど……そうね、此処だと魔法と呼ぶの
かもね」

あっさりと、サラは自分が使った術が魔法だと答える。

だが、同時にそれは稟が知る常識にとって有り得ない答えでもあ
った。

そう、2年前の開門により、齎された錬金術を扱うことは出来ても、魔法は

神族・魔族しか扱えず純粋な人間には扱えない。

それが、この世界の常識である。

「けど、目の前の女性は神族や魔族特有の耳も持っていないし、どう見ても

人間にしか見えない。

「じゃあ、お姉さんって神族なの？ それとも魔族？」

「だからこそ、念の為に確認してみるが……」。

「私は真正銘の人間だけど……もしかして、私人間に見えないのかしら？」

「ううん、僕も人間にしか見えないから信じられなくて……」

返ってきたのは予想通りというべきか、人間よという答え。

そこで、何かに気づいたのかサラはもしかして……と漏らすと、隣に座らせた

稟に問いかける。

「ねえ、もしかしてこのせ……、ううん。普通、人間は魔法を使えないの？」

「うん、僕がお父さん達に魔法を使えるのは神族や魔族だけで、人間が使えるのは

あくまで錬金術だけだって聞いたよ？」

そう稟が告げた瞬間、サラはあちゃ〜と言わんばかりに右手を頭に載せ、空を仰いだ。

油断したくだの、大気のマナが濃いからくだの、一通り稟には全く意味が分からない

独り言を呟くと、ベンチから立ち上がり座ったままの稟の前に立って、しゃがむと視線

を合わせる。

「ねえ、稟。これから言う事は他言無用って誓えるかしら……?」

真剣な表情で、稟の目を見るサラ。

そんな彼女の視線を受け、稟はここにきて初めて決意の表情を浮かべ頷いた。

「うん、誓えるよ」

そんな稟の答えに満足したのか、サラはふふと微笑むと改めて稟の隣に腰を下ろした。

「それじゃ」

こうして、後の師弟となる少年と女性は出会った。

この出会いが後に何を齎すのかは、当人達でさえ知らない。

しかし、運命の歯車はこの時確実に回り始めたのは間違いないだ
らう。

プロローグ 雨の日の出会い（後書き）

初めての方は始めまして、お久しぶりの方はお久しぶりです。

紅の鳥といえます。何を思ったのか、SHUFFLE!の二次創作を投下してしまいました。

妄想してたら、手が止まらなくなってしまった……反省。

とりあえず、このSSはSHUFFLE!の再構成SSとなります。基本は原作沿いになりますが、途中でオリジナルストーリーが幾つも絡んだり

しますのでご注意ください。誰ルートになるかは……秘密です。

もしかしたら、全くのオリジナルルートになるかもしれません。

更新速度は……別のSSもあるのでまあ、遅くなりそうです。

いい加減、他のSSも更新しないといけないけど……最後の最後でスランプ

状態orz

では、また次話でお会い出来る事を祈りつつ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1791r/>

SHUFFLE! ~IF Story~

2011年3月10日01時45分発行